

ナスフザリウム立枯病の薬剤防除

農業技術センター

〔背景・ねらい〕

ナスに発生するフザリウム立枯病は平成23年に高知県で初めて確認された病害である。発生圃場は徐々に拡大し、平成25年には100以上の圃場で確認され、発病株では収穫不可能になることから大きな被害を生じている。本病に対しては効果的な薬剤防除法がなかったことから、本病害に対する農薬の登録拡大を行う。

なお、これまでは本病害に対する登録農薬はなかった。

〔新技術の内容・特徴〕

1. ナスフザリウム立枯病に対してセイビアーフロアブル20を予防的に散布する(表1、表2)。
2. セイビアーフロアブル20の登録内容は次のとおりである。

散布時期：収穫前日まで、散布回数：3回以内、希釈倍数：1000倍

〔留意点〕

1. セイビアーフロアブル20は平成27年2月4日にナスフザリウム立枯病に登録を取得した。
2. 傷口から感染しやすいため(表3)、整枝・収穫作業が始まる時期から防除を行う。なお、感染は高温時期に起こっていると推測されており、定植から11月までまたは3月以降に散布するのが好ましいと考えられる。
3. 感染後に薬剤を散布しても病徴の進行を抑制する効果は期待できない(図1)。
4. 初期の発病枝においても分生子が多数確認されることから(図2)、感染後は速やかに発病株あるいは発病枝を切除する。
5. 太陽熱消毒などにより圃場内の菌密度を低下させることが予防に効果的と考えられ、土壌消毒と併せて本研究で示した防除を行うことで高い防除効果が期待できる。
6. 適用範囲は県内の施設ナス栽培地域とする。

〔評価〕

ナスフザリウム立枯病に対する薬剤防除が可能となり、ナスの安定生産に寄与する。

〔具体的データ〕

表1 ナスフザリウム立枯病に対するセイビアーフロアブル20の
予防効果（ポット試験）（2013）

試験	農薬名	発病枝数 / 調査枝数	防除価
I	セイビアーフロアブル20	3/15	78.6
	無処理	14/15	
II	セイビアーフロアブル20	0/10	100
	無処理	10/10	

注）ポット苗に薬剤を散布後、ナスフザリウム立枯病菌を接種し、試験Iは11日後、試験IIは16日後に発病枝数を調査した。

表2 ナスフザリウム立枯病に対するセイビアーフロアブル20
の予防効果（圃場試験）（2013、2014）

散布薬剤	発病主枝率(%)	
	2013年度	2014年度
セイビアーフロアブル20	2.8	4.2
無処理	61.1	20.8

注) 薬剤を散布後、接種し、各主枝の発病の有無を調査した。
試験は1区8株3本仕立ての3連制で行った。

表3 付傷後の経過日数が感染に与える影響(2013)

	付傷後日数						付傷なし
	0	1	2	3	6	10	
発病枝数 / 調査枝数	10/15	10/14	6/10	5/8	3/9	8/11	0/12

注) 病原菌を接種する1、2、3、6、10日前または接種当日に、供試ナス苗の枝を切って付傷した。
対照として付傷していないナス苗も供試した。
各処理あたり2～3株のナスを供試し、病原菌接種11日後に発病の有無を調査した。

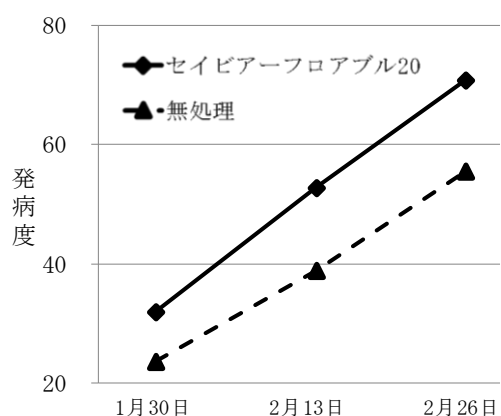


図1 感染後の薬剤散布が病徴の進展に
与える影響(2013)

注) 発病確認後の1月30日および2月13日に薬剤
を散布し、その後の発病の推移を調査した。

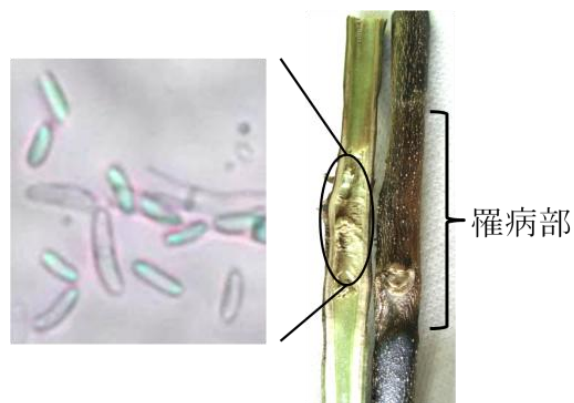


図2 初期の発病枝とその内部の
分生子(2013)

[その他]

研究課題名：突発性病害虫・生育障害等の原因究明と対策

研究期間：平成11年度～(課題期間：平成25～26年度)、 予算区分：県単

研究担当：病理担当

分類：普及